

沿岸定線観測速報 ちば (2019年5月)

千葉丸：5月4～5日

千葉県水産総合研究センター

千葉県農林水産技術会議

令和元年5月20日

黒潮は、野島崎沖では例年並みの離岸状況でしたが、犬吠崎沖では大きく離岸していました (図2)。水温は、銚子・九十九里及び外房ともにおおむね平年並みの水温でした (表1)。

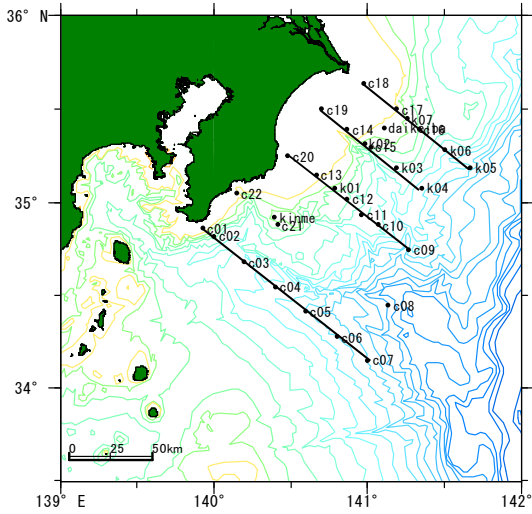


図1 調査点 (C11とK1～7は欠測)

線は北から犬吠崎, 九十九里, 太東岬, 野島崎ライン

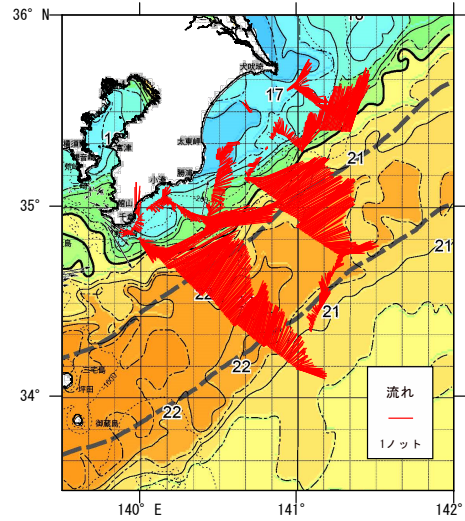
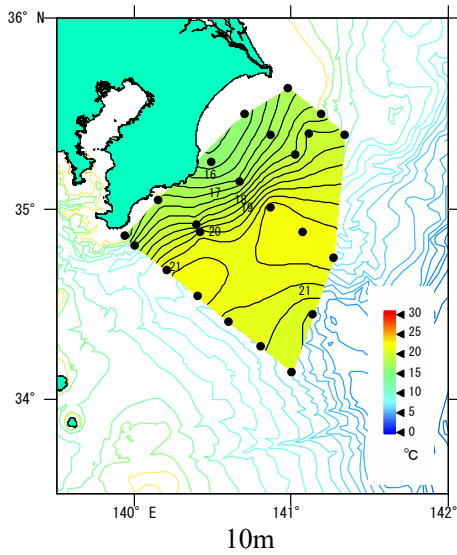
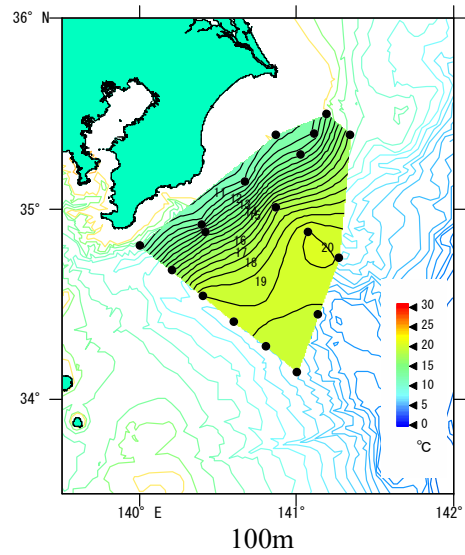


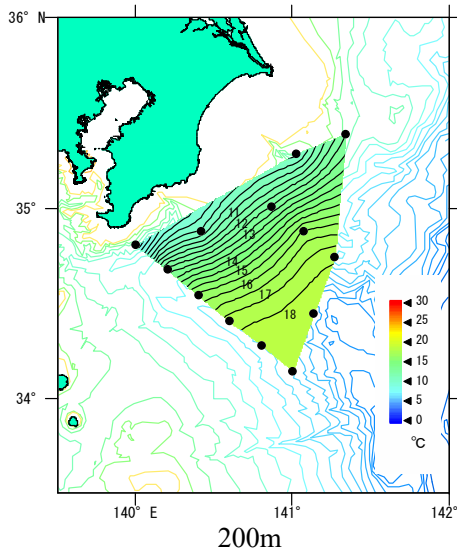
図2 観測時の海況



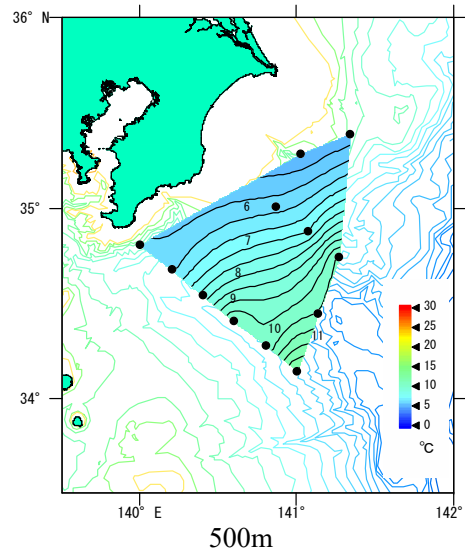
10m



100m



200m



500m

図3 水深別の水温分布

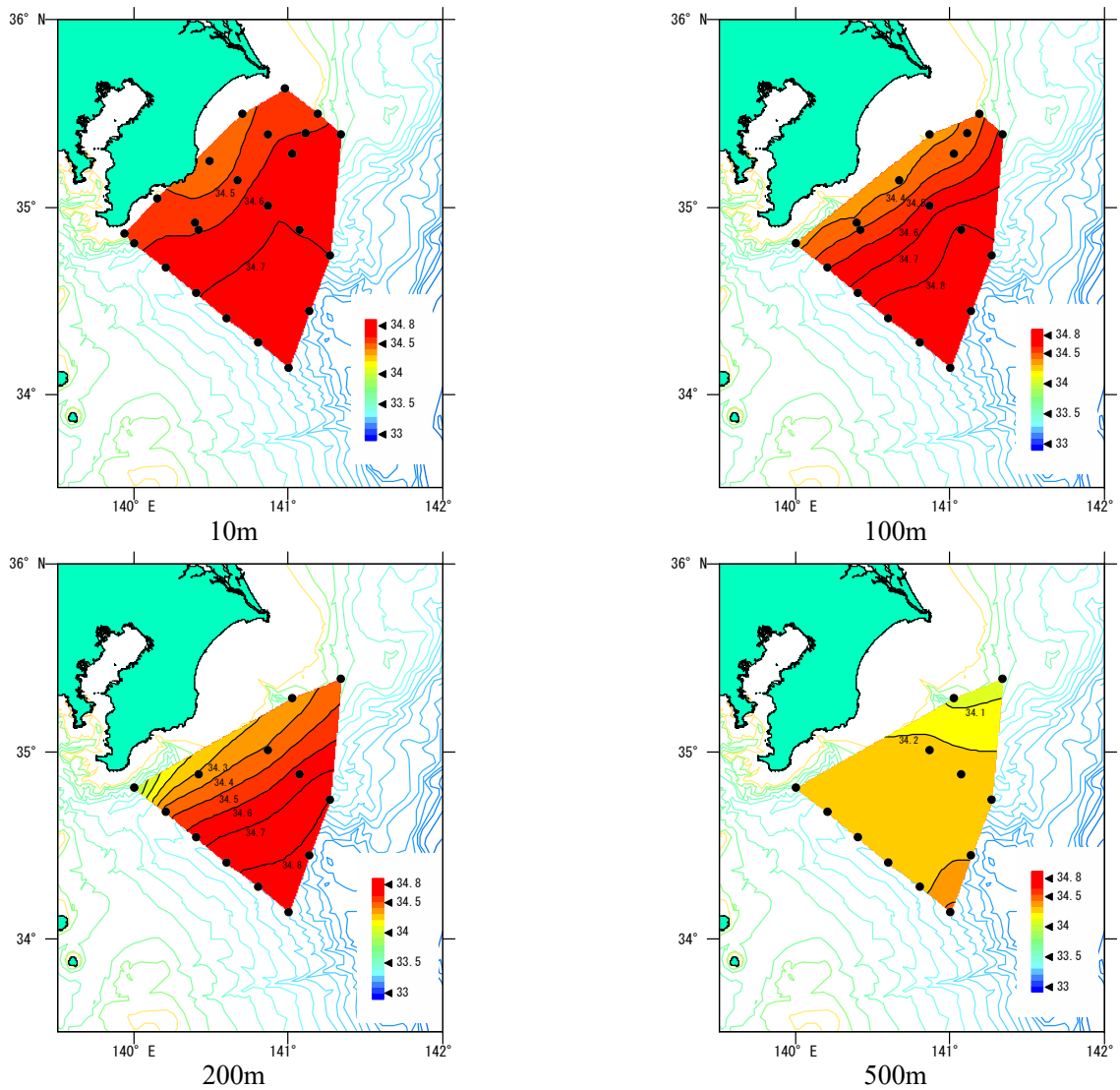


図4 水深別の塩分分布

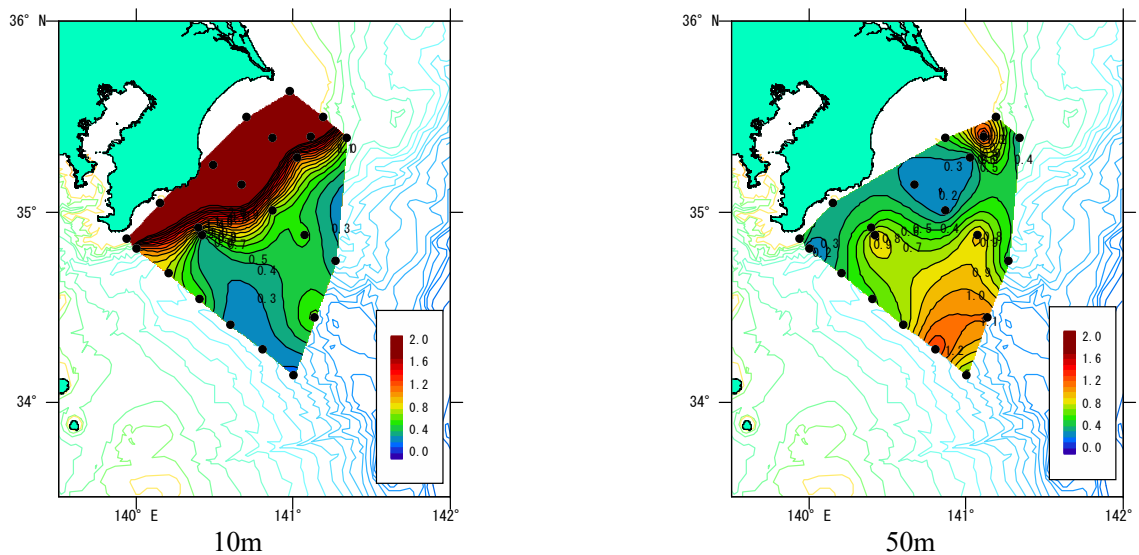


図5 水深別のクロロフィル分布 (単位: $\mu\text{g/L}$)

海面水温は15~23℃でした(図3)。沿岸域は海面塩分が34.5以下でした(図4)。

犬吠埼ラインの水深400m以深, 九十九里ラインの水深250~350m, 野島埼ラインの水深150~350mには34.0以下と非常に低塩分の水塊が見られました(図7)。この低塩分層では酸素濃度が高かったため, 先月中~下旬に鹿島灘沖の表層で見られた親潮系冷水が沈降して形成された可能性があります。

クロロフィルは, 沿岸部のごく表層(水深10m)で非常に高く, 最大で $8\mu\text{g/L}$ に達していました(図5)。

勝浦沖キンメ場, 銚子沖台形場ともに, すべての水深で去年より低温, 低塩分でした(図8)。

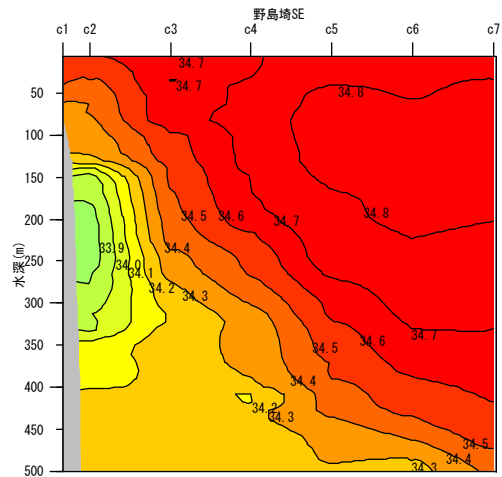
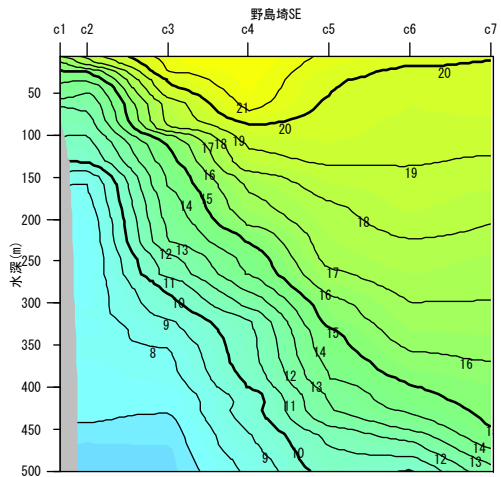
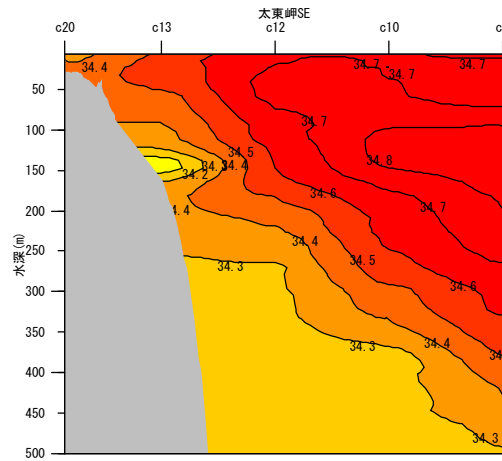
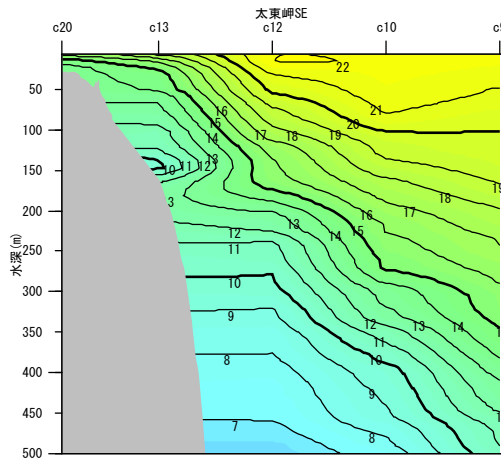
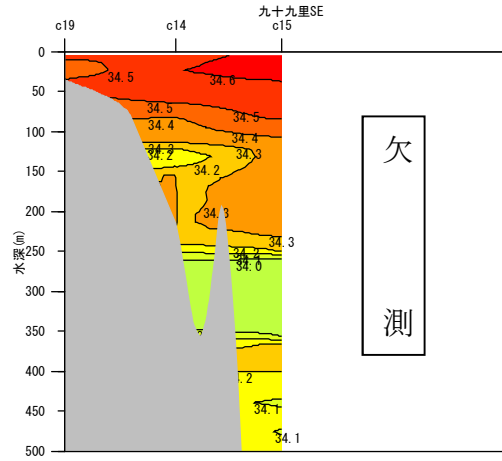
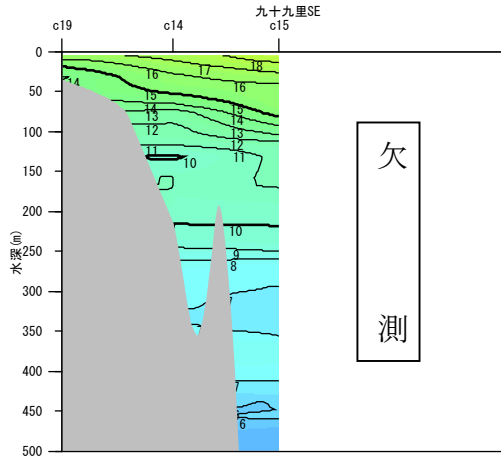
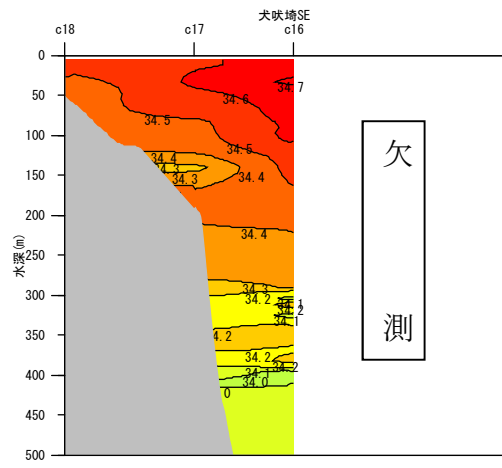
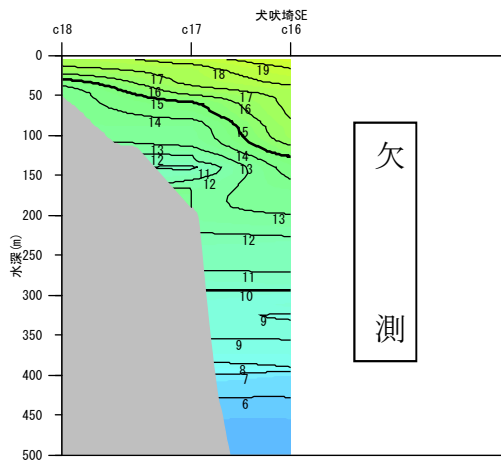


図6 水温鉛直分布 図7 塩分鉛直分布
 いずれも上から犬吠埼, 九十九里, 太東岬, 野島崎ライン (図1 参照)

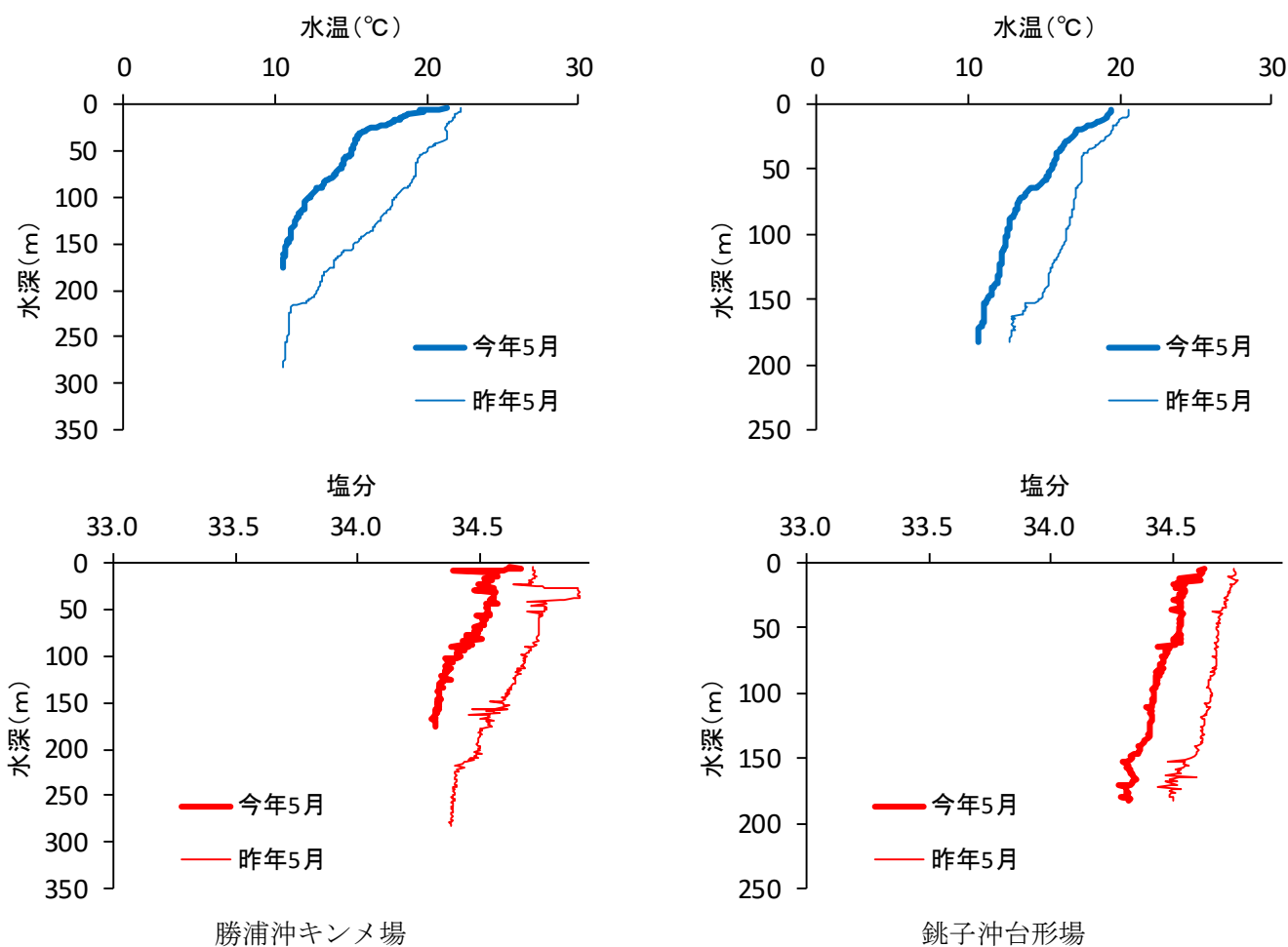


図8 勝浦沖キンメ場・銚子沖台形場の水温塩分鉛直分布

表1 海域別平均水温 (°C) と評価

海域	0m		50m		100m		200m	
銚子・九十九里	18.2	平年並	15.6	平年並	13.8	平年並	11.6	平年並
外房	19.3	平年並	15.6	平年並	14.0	やや低め	11.9	平年並

*水温評価点 (銚子・九十九里海域：C14~20 計7点)
(外房海域：C1,C3,C11,C13,C21,C22 計6点)

*沿岸水温評価の目安

きわめて高め	2.0 σ ~	
高め	1.3 σ ~ 2.0 σ	
やや高め	0.6 σ ~ 1.3 σ	
平年並み	0 ~ 0.6 σ	
平年並み	0 ~ -0.6 σ	
やや低め	-0.6 σ ~ -1.3 σ	
低め	-1.3 σ ~ -2.0 σ	
きわめて低め	-2.0 σ ~	(σ : 標準偏差)

<資料> 関東・東海海況速報 (図2 ; 5月7日分)